



26年度 第3号  
通巻1825号

発行所:  
高知県教職員組合  
〒780-0850  
高知市丸ノ内2-1-10  
TEL088-822-4135  
FAX088-823-2355

全教職員  
配布  
読んでね

県教組HPは

↓こちらから



# 「楽しい学び」こそ教師の力に

5月23日土曜日、高岡教育会館でセンターの学校を行いました。青年4名(内未組3名)を含め12名の参加でした。「楽しい学び」が広がりました。

まずはみんなで簡単に自己紹介をし、連想ゲームと8秒しりとりでウォーミングアップ。

前の人の言葉から連想したものと言うのは意外と難しく、何度もしまりながらでしたが、みんなが温かく見守り、楽しい雰囲気になりました。



ゲームの後は簡単な模擬授業。最初は「詩」の授業でした。先生が一年生の詩を一行ずつ出し、最後の一行を考える授業でした。「なんだろう?」「○○では?」「うーん、ちがうなあ」と、それぞれ言

葉の感覚を磨きながら詩を楽しみました。次は、一年生の引き算の導入場面の模擬授業でした。ドラえもんがどら焼きを食べるように仕掛けた教具を使い、楽しみながら引き算の場面を式に表すことを学びました。



みの理科の実験コーナー(写真右)。火のついたマツチを入れた牛乳びんに、ゆで卵が吸い込まれていく実験を見て「なぜそうなるのか」を解説してもらいました。

また、アンモニアをためた容器をフェノールフタレインの液に入れると・・・? あらあら不思議! 容器が溜まっていき、「おおーっ」と、歓声が上がりました。

**7月25日(土) 第50回教育講座**  
県民文化ホール多目的室など  
午前10時 全体会  
記念講演 渡辺雅之さん  
午後1時30分から 教科などの分科会  
参加費 2500円(1日通し参加)等  
★詳細は、今回同送したチラシか、  
県教組HP中のチラシをご覧ください。

参加者からは、「低学年を中心に授業をしてくださり、とても勉強になりました。どのような風に指導をすればよいのか、また声掛けについても知りたいです」「学級でできるレクや授業などを知れてよかったです」「模擬授業で具体物を使った実践や、子どもたちが喜びそうなネタを準備するなど、すぐに使えるようなことをたくさん学べてよかったです」等と感想が寄せられました。また、「図工、音楽等の技能教科のことも教えていただきたいです」という声もあり、まずは教育講座にお誘いし、高岡でも「センター」の学校・第二弾として、悉皆研修では学べない、楽しくためになる学習会を、を計画しようと呼んでいるところだ。(高岡教組)

**お城下**  
山の小さな学校に転任して2年目、先日は家庭訪問があり、校区をあちこち回りました▼前任校では、家庭訪問は表札訪問と形が変わり、面会希望者以外は家の確認だけでした。現在校では、各家庭まで訪れて、保護者と顔を合わせ、子どものことをあれこれ教えてもらいました。その中で、実践のヒントもたくさんもらうことができました▼今、学校は「働き方改革」の名の下で、数々の行事が削減されています。いろいろな削減すればよいのですが、必要なものでなくなってしまうような気がしてなりません▼みなさんの学校には、コロナ禍でやめたり、縮小したりして、そのままになっている行事や活動はありませんか。行事の削減と同時に、子どもたちの笑顔も削減されています。学校の新緑に癒やされながら、笑顔を作るために頑張るぞと決意新た。(小)

5月9日、10日と「ビキニデーIN高知2026」が高知城ホールで開催されました。1日目は、文化行事と野口邦和さん(研究者・環境放射線学等)による記念講演、夜は参加者夕食交流会がありました。2日目は、3つの分科会に分かれたの協議が行われました。

1日目に参加した県教組組合員から次のような感想が寄せられました。

5月9日(土)、ビキニデーIN高知に参加しました。文化行事では、劇団The「創」による朗読劇「核のない未来へ」と、室戸市民合唱団と高知センター合唱団の歌声が披露されました。どちらからも、核の廃絶、平和な未来の実現に向けた思いが伝わって、胸が熱くなりました。最後の曲「青い空は」では、会場全体が合唱団とともに歌い、平和の歌声に包まれました。講師、野口邦和さ

んによる記念講演、「今求められるビキニ事件の真相解明」核実験の地球環境汚染と生命への影響」では、核実験の非人道性と隠蔽される事実の裏側で苦しむ被災者・被害者の姿を生々しく感じました。「核実験が行われる背景には、差別がある」と野口さんは語られました。核実験の歴史を、資

料を元に見てみると、実験に使われた場所はどこも、当時、核保有国に従属させられていた土地であり、そこに住む人々をいかに軽視していたのかが見えてきます。野口先生が説明してくださった資料は、どれも事実に基づいた具体的なものでした。そして、私たちが今まで知らなかった事もありました。

「自分たちが正しい」「自分たちが正義」「自分たちが平和を守っている」というような至上主義の考え方が、いつの時代でも戦争を起こす引き金になっているように思います。教師の立場で、このことを教室というごく小さなコミュニティに当てはめてみても、やはり争いの絶えない学級が生ま

れてしまします。だからこそ、私たちは他者と分かり合うこと、手を取り合っ助け合うこと、共に未来へ歩むことを伝え、導いていくようにしたいかねばならないと思います。子どもたちとともに奮闘しているのです。世界も、このよう

な考え方が広がればと思います。時の為政者たちは争いを、実際にその時代を生きた人がいることを学んでほしい。ちょっと深掘りをした内容の方が子どもたちも意欲的に学べるという話には、参加者の方も大きく頷いていました。そのような授業をできるようにするために、まずは我々が疑問をもち深掘りをする姿を見せていかなければならない。

若者の参加者からは、平和活動に対する、周りからの目が気になる、不安になるという声もあった。デモや署名活動に、参加しづらいとの声もあつた。他の参加者から「時間はかかるが、地道な取り組みが大切」であること、「微力だけれど、無力ではない」ことなど、応援の言葉が溢れてきた。若者も多く、未来を創る活発な議論が行われた分科会であった。時期を同じくする5月、国連で核兵器禁止条約第3回締結国会議が開催され、平和な未来を願う被爆者の「核兵器廃絶を」の声とその会議でも伝えられました。(合意文書が採択に至らなかったことはとても残念です。)ほぼ同時期に開催された「ビキニデーIN高知2026」も、これからの「核のない平和で安心な社会」の実現を願う集いとなりました。

## ビキニデーin高知、5月9・10日に開催 核廃絶・平和への願い新たに

好み、真実を隠します。さらには、悲しい経験を二度と繰り返すまいとして作られた大切なものまで、今その手で壊そうとしています。

ヒロシマ、ナガサキ、ビキニ、フクシマ。この思いを必ず未来へと繋げ、子どもたちに核のない、戦争のない、平和な未来を...

一日目を通して感じたことです。

2日目、第1分科会は「核被災の真相究明と補償を求める」分科会でした。第2分科会は、「地域から平和をつくっていく」分科会でした。第3分科会は「核廃絶と平和学習・教育」分科会でした。

第3分科会に参加した県教組組合員の感想をご紹介します。分科会では、全体を通して、教科書の学び、つまり知識だけ

けでなく、人と出会い、直接話を聞いたり、みたり、することの大切さを感じた。風船爆弾を作っていた時のこと、戦時中の生活のこと、新しい憲法に光を見出したこと...。国から事実を秘密にすることを強要されたり、差別等があるため知られたくない、思い出したくないという戦争や被ばくの体験者。一方で、事実を

伝えなければとの思いもある。聞き取りなどの運動を通して、私たちが事実を学び、それを伝えていかなければならない。我々が、次世代の語り部、語り継ぎ部にならないといけないと思っ

ている。これからも肌で、心で学ぶことを続けていきたい。戦争を学ぶ子どもたちにも、それは教科書の数ページ、数行の出来事ではなく、



# 平和行進も県内で平和を訴え！

今年も、核兵器廃絶を願う原水爆禁止国民平和大行進(以下、平和行進)が行われています。「核兵器廃絶」をアピールしながらチラシや核兵器廃絶の署名などを配付し、参加者

のスタートは、5月9日(土)。南国市と高知市で行われました。これが、8月の広島・長崎へと続く四国の平和行進のスタートにもなっています。

高知市では、夕方5時に丸ノ内緑地に集まり、集会后、はりまや橋まで電車通りを行進し、それから帯屋町商店街を通り丸ノ内緑地に戻るコースで行っています。

高知市の平和行進は、高知市内の西半分まで約1週間かけて回りながら、平和行進をリレーしていきます。

その日から、主に高知市内の西半分の各地を17日(日)まで約1週間かけて回りながら、平和行進をリレーしていきます。

29日まで続けました。5月17日(日)午前10時から宿毛市内において平和行進を行いました。多くの参加者は平和行進の横断幕や各組織の旗を掲げ、出発点の旧宿毛市役所から商店街を行進し、旧市街中心部へ到着しました。そこでは市議会議員の方のメッセージが代読されましたが、地元・宿毛市で被爆された方がいるという歴史的事実が盛り込まれており、参加者の心に深く響く内容でした。



高知市の平和行進の様子。参加者は核兵器廃絶の署名などを配付し、平和行進を行っています。



高知市の平和行進の様子。参加者は核兵器廃絶の署名などを配付し、平和行進を行っています。

そして、同日12時に高知県と愛媛県の県境において、平和行進の引継ぎ式が行われました。

引継ぎ式には高知県・愛媛県合わせて30名が参加し、県内から寄せられたメッセージ入りのペナント150本とともに、横断幕が愛媛県側へ引き継がれました。参加者の中には車いすを利用されている方もいらつしやいましたが、平和が脅かされている今こそ守り抜くという、皆さんの強い意志を感じました。

## 働き過ぎを防ごう！

### 定時アクションを5/20に実施

高知県教組・高教組では5月20日(水)午後6時から約40分間、高知市のひろめ市場前アーケードで、街頭宣伝・署名活動(長時間労働解消署名・えがお署名)・シール投票を行いました。

この行動は、全日本教職員組合(全教)が、学校現場の働き過ぎの現状とそ

の事態改善に向けて国の施策改善を求めるために、全国の仲間

に呼び掛けて行われたものです。あいにく夕方から雨になりましたが、参加した



高知市の平和行進の様子。参加者は核兵器廃絶の署名などを配付し、平和行進を行っています。

教職員のための自動車保険は

## 全教自動車保険

教職員と家族を守って36年

WEBでかんたん見積依頼

右のQRコードから見積り依頼を→

お問合せは代理店ケンキョーまで ☎ 0120-459-813

高知県内にある道の駅巡り ③

1	2	3	4	5	6
7					
8					
		9		10	
11	12			13	14
15					

【タテのカギ】

1. まだ新しく色彩が豊かに感じられる様子
2. ぴったりと体に乗った様子
3. 『名探偵コナン』の登場人物の一人。黒ずくめの組織の中心。
4. 読めるかな? 「目映さ」
5. 松竹梅、一番上位は?
6. 責任を持って果たさなければならぬ仕事
9. 後ろの方
10. 他の援助を受けないで生活すること
12. 物を入れる倉庫

【ヨリのカギ】

1. 『ガラスの仮面』、主人公は。
7. (マニアックでゴメン) 1976〜80年、阪神タイガースに在籍した外国人選手。背番号40。
8. くつつきワード
9. 料理道具の一つ。5ccを計量。
11. 実際にあるのでなく、頭の中で
14. 新潟県の沖合に浮かぶ、昔は金山で有名だった島の略称

考えたこと

13. 梅雨の時期、外出時には〇〇を忘れずに。

15. 競走馬の優良種。生まれの良いい存在という意味も。

かぎを解いて二重枠に入る5文字で、高知県内にある「道の駅」の名前を作って下さい(解答に「道の駅」とつける必要はありません)。

① 解りませぬ。② 郵便番号・住所

③ 氏名(匿名希望の方はペンネーム可、ただし本名は忘れずにお書きください)④ 職場名⑤ 職場の話題か教育通信の感想、を書いてメールまたは葉書で送って下さい。

締切は7月28日(火)(月末ではないので、締め切り日にご注意)。

3名の方に図書カードを進呈。⑤は紙上で紹介させていただけでなくあります。

【4月号の当選者】

「布施ヶ坂(ふせがさか)」「津野町」でした。抽選の結果、次の3名の方が当選

されました。おめでとうございます。

いつも心に押忍をさん(大月中)

上田美希菜さん(越知小)

和田愛美さん(伊野南小)

(なお、正式名称は「ふせがさか」でした。現地のローマ字表記も「sakai」になっていました。十分に調べないまま、日頃呼び慣れている形で問題を作成してしまいました。申し訳ありません。以後、気をつけます。ご了承ください。)

【みなさんの声より】

○現場でタブレットの使用時間が多くなると、危険感を持つていました。子連の学習会に行けなかったのも、記事がわかりやすく、ありがたかったです。教育関係者もそうでない人も真剣に考える問題だと思います。

○ホームページが見やすくなったとお声があり、嬉しい限りです。

今後とも、高岡高校をよろしく願います。

○デジタルツールは、学習をむしろ妨げるという見出しに惹かれました。各能力の妨げや、タブレットの使い方での時間の浪費など使うことでもメリットもあると感じています。

○「デジタルツールは、学習をむしろ妨げる」。本来、「人」が「もの」を「使う」はずなのに、「情報」

**二次審査を受けられる方へ**  
7月18日(土)午後12時「明日を拓く連続講座(二次面接対策)」を計画中です。参加しませんか。(参加費無料)  
希望される方は、事前申し込み(先着順)が必要です。左記の県教組メール用QRコードから、「名前・受審校種・受審教科又は職種・連絡先電話番号」を明記の上、お申込下さい。なお、県教組HPには、詳細なチラシを載せています。そちらもご利用ください。

の大きな波に飲み込まれ、「もの(含む情報)」に「人」が「使われている」と感じることもありま  
○再任用で給料も少なくやる気も起きない毎日だが、生徒からパワーをもらいたい。  
○清々しい五月晴れのもと、初の半日実施となった運動会が無事に終わりました。限られた時間の中で、担任する4年生が最も尽力したのは、中学年の課題競技・一輪車。初チャレンジの3年生をリードしつつ、様々な合体技を披露しました。クライマックスは4年生12名に選抜の3年生が加わり、22人で挑戦したビッグメリーゴーランド。2度ほど崩れ、3度目に成功した瞬間は、堂々とした演技にこれまでの子ども達の苦労と努力が重なり、目頭が熱くなりました。30人全員の手繋ぎで退場する子ども達の表情は晴れやかで、やり遂げた大きな達成感に溢れていました。休み時間返上で頑張った子ども達に拍手!

メールはこちら

